

第1回基本構想審議会 会議録（抜粋）

(5) 基本構想案について

① 計画の背景と課題について

- 私が希望するのは、行政とNPO等の団体が互いの専門性を認め合っ
て、対等な立場に立ってやっていくのが理想だと思いますので、よろし
くお願いします。
- 小野田商工会議所では、現在、循環型社会について検討しており、そ
れらの話もこの場に持ち込むことになると思います。また、大型店の進
出等により中心市街地はさびれてきました。これが、まちづくり三法の
改正によって今後は大型店が郊外に出店しにくくなります。**小さくても、
にぎわいのある街を作る方向に国が動いており、この動きに山陽小野田
市が、どのように乗れるかどうかということがある**と思います。

意見 1

② 山陽小野田市の将来像について

- 基本構想はよくできていると思うし、本当に進められれば日本一の市
になると思います。しかし、これまで計画としてどんなものがあり、ど
のような投資効果があったのか。実施計画の見直し等はどうかだったのか。
それらを踏まえて、20年からの計画を考えてほしいが、これだけ多くの
素案が必要か疑問であり、2,3年度ごとに何をするかを決めていくべきと
思います。来年度からは景気が悪くなり、為替レートも110円を切り、
法人税収入も減少すると思う。これからは、総花的には計画を進めるこ
とはできないと思う。事業を絞って行う必要がある。平成17年度までの
計画に対してはどの程度のことをやってきたのか、説明してほしい。
- 財政が逼迫している中、国でもどこでも、**官民協働**がいわれており、
市長さんも「市民参加による市民本位のまちづくり」を主張されてお
ります。**市民も行政依存ではなく、自分たちでできることは自分たちでや
るという意識を持たねばならない**と思います。その中で「防災・治安」
など**行政がやるべきことは徹底してやり、市民がやるべきことの役割分
担を明確にすべきである**と思います。この計画をみると総花的であり、
絵に描いたもちのような感じがします。どういったまちづくりをするか
の骨組みを決め、**市民が見て「自分のまちは、こんな事を目指している
んだ。」**ということをわかりやすいようにしないといけないと思います。
この計画には**市民と一緒にやってみようという気にさせる**ものがありま
せんでした。
- 将来像の図を見たときに、**子どもが「住み良い」と思えるようになる
には、生活の基になる産業をしっかりと考えておく必要がある**と思いま
す。本市には豊かな自然、歴史がありますが、それだけでは60歳を過ぎてか
らのまちづくりになってしまう。**勢いをつけるまちづくりを進めていく
には産業について考えていかなければならない**と思いますが、市はどの
ようにお考えでしょうか。

意見 4

意見 1

第2回基本構想審議会 会議録（抜粋）

（1）基本構想原案について

① 将来都市像について

- 将来都市像の言葉一つひとつは理解できます。しかし、本当に訴えるものを考える必要があるのではないかと。新しい町になって初めての**基本構想の基本理念に基づく将来都市像は、市民にしっかり伝わるものが必要**だと思います。
- 基本理念の中には「住み良さ」が全面に出ています。「住み良さ」が全体を占めるのならば、キーワードは「住み良さ」だけでいいのではないですか。「住み良さ」とは何かと考えたら、いろいろな言葉がありますが、将来都市像では、「住み良さ」と「出合い」などの言葉を、同じレベルに並べるべきではないと思います。
- 将来都市像の「人と出合い 支え合い 自然とふれあう 住み良さ創造都市」という言葉は、非常になめらかに流れていますが、“**自然に穏やかに過ごせばよい**”という感じで、言葉から受ける印象では“**活力**”が感じられません。市としての“**燃え上がる意欲というもの**”が感じられません。それがあれば、“**住み良さ**”がもっと出てくるものと思います。言葉から受けるイメージは非常に大事なものと思いますが、いかがでしょうか。
- これは、大変重要なことだと思います。これが山陽小野田市の将来像のイメージとして、市民の目や耳に触れる訳ですから。確かに、副題には入っていますが、主題に“活力”が出てこないのは、寂しい気がします。いかがでしょうか？
- 一市民として考えたとき、**誰もが山陽小野田市に住んで良かったと思うのは、「人と出合い 支え合い 自然とふれあう」という中に、1つ「燃えるものがあるんだ」、市民にはそんな「意気込みがあるんだ」ということが伝わってくると、非常にうれしい**と思います。その辺をご検討いただけないかと思います。
- “活力”が入ることは表現の問題だと思います。私もこの将来都市像におとなしいイメージを感じたのは事実であります。目指すところはいいと思いますが、何か訴えるものが欲しいという方は他にもいらっしゃるのではと思います。
- 今、問題になっているのは、“**人と出合い 支え合い 自然とふれあう 住み良さ創造都市**”の4つの言葉にもう少し“**活力**”が欲しいという点です。
- 先ほど、事務局から副題に“活力”が入っているから良いではないかという話がありました。しかし、副題は副題、主題は主題で、副題では弱いと思います。そこを考えてほしい。主題に“活力”が見えるように検討してほしい。そうすれば、山陽小野田市は、“住み良さ創造都市”になると思います。
- ここに出ているキーワードは、無難にこなしていて卒がない言葉ばかりで、“元気”が見えてこないと思います。キャッチフレーズの中に“元気”を表わせるよう検討してほしい。**山陽小野田市が“元気”になって**

意見 4

意見 1

欲しいと思います。

- 自然界では、すべてにおいて成長しないものは、衰退するばかりです。従って、“**住み良さ**”を追求するためには、“**成長**”しなければなりません。“**成長**”という言葉を入れれば、“**元気**”も“**活力**”も入ることになると思います。山陽小野田市は、現状のままでは、総人口は減ることになると思います。人口が減るということは、衰退するということです。私は、“**成長**”することが“**住み良さ**”の基本だと理解しています。
- この将来都市像をみると、ここにあるキーワードを盛り込んでつくられています。1つの案として、副題に出てくる“活力ある”を主題に持ってきて“活力ある創造都市”とし、主題にある“住み良さ”を副題に持ってきて“住み良いまちを目指して”とすることも考えられます。いずれにしても、ここにあるキーワードを上手く使って、将来都市像をどう活かすかということだと思います。
- “活力ある創造都市”という言葉で、だいぶ元気になったと思います。
- 一般的に、基本理念は抽象的であるのに対して、今回、事務局から提案された“住み良さ”は、具体的でやさしさが出ていると思います。一方、“活力”はアグレッシブな言葉であります。現在の高齢化社会では、“住み良さ”はやさしさを感じられていい言葉だと思います。
- “活力ある創造都市”という意見が出されましたが、今からは少子高齢化が進むので、実態は別としても言葉の文句は勇ましい方が良いと思います。ここは、会長さんが音頭を取って、決められてもいいのではないかと思います。
- 表現は難しいが、「人と出会い 支え合い」を1つにすることも考えられます。イメージ図の真ん中の「**住み良さ**」は、最も重要なキーワードではありますが、“まち・人の活力”が示されているのも事実であり、「**活力がほしい**」というのは**市民の皆様**の共通の考えだと思いますので、事務局として次回までに検討していただきたいと思います。
- (市長) ご参考までにお話をしたいと思います。先日来、2回ほど幹部職員の策定本部会議を開催しました。将来都市像の作成にあたり、10個の候補の中から3つに絞り、さらに絞って修正を施しました。その過程の中で、3つの候補の中の1つとして「住み良さ創造都市」だけで良いとする意見がありました。確かにこれに「人と出会い 支え合い 自然とふれあう」という言葉を付け加えると、会長のご指摘を聞きながら、地方都市、田園の風景が頭に浮かぶような田園地方都市のイメージになります。このような将来像に収束しかかった時、“活力”の2文字を、ぜひ、入れてほしいという強い意見が出てきました。何となく、**お年寄りが集まって、ひっそり楽しく過ごす地方都市ではなく、やはり産業、そして活力、まちのエネルギーを表す言葉を入れた方が良い**というのです。その結果、修正を施す形で、副題に“活力あるまち”を入れました。

意見 1

意見 1

意見 1

第3回基本構想審議会 会議録（抜粋）

（1）基本構想原案について

① 将来都市像の修正について

将来都市像の修正ですが、4つの基本理念を基にして、次のように将来都市像を設定します。

『山陽小野田市は、「市民の安心・安全の確保」「まち全体の活力」を基本とし、人情豊かな地域社会と市民の自然等への愛情や誇りを大切にしながら、生活の中での豊かさが享受でき、子どもからお年寄りまで安心して、いきいきと住み続けられる「住み良い」地域づくりを進めていくため、将来都市像の主題として「人と出会い 支え合い 自然とふれあう 活力ある 住み良さ創造都市」、副題として「～子どもからお年寄りまで安心して住み続けられる心豊かなまちを目指して～」を設定し、この市に暮らす人々の地域への愛着と誇りを醸成し、その実現に努めます。』以上、提案いたします。ご審議のほどよろしく申し上げます。

- 前回の審議会でいろいろな意見が出され、事務局よりこのような提案がされています。何かご意見がございますか？

修正案には、前回なかった「活力」という言葉が入っています。文章として長いという感じもしますが、「人と出会い 支え合い」という言葉は、「基本理念に基づく将来像のイメージ」から必要であろうと思います。将来都市像は、これでよろしいですか？

- （出席委員） 異議なし。

② 目標人口について

- 平成7年～平成12年、平成12年～平成17年の間の人口減少率は約2.0%であるのに対して、平成22年になると減少率は約3.2%となり、人口減少が進行するということですが、基本計画を立てて実行に移し、**住み良いまちを目指すのは、人口を増やすため**であって、自然減の人口をそのまま使用するのには、いかがなものかと思えます。
- **人口の減少というのは大変な課題だ**と思えます。**企業誘致や厚狭駅前の開発地の活用など、市としての積極的な施策の展開が必要**になります。
- 山陽小野田市は、山口県下で財政的にワースト1といわれており、平成22年までは推計以下になるかも知れない。しかし、後の5年～7年間で、いかに持ち直すかが重要となります。**目標人口は、強引でも66,000人ぐらいにすべきだ**と思えます。**人口が減ることは市が衰退する**ということで、たとえ**現状維持でも衰退につながる**と思えます。
- **目標人口が64,000人でも、65歳以下の働く人の割合がどのくらいか**によると思えます。**その割合が多ければ、将来の山陽小野田市の発展・活力につながります**。国の推計によると20年後には、65歳以上が35%以上になるといわれていますが、これを30%以下にする必要があります。結局、**企業を誘致しないと人口は増えません**。出生率が昔のように高くなることはないと思うし、**企業誘致などで30歳代の若い人を増やす必要がある**と思えます。**たとえ人口は減っても、活力ある65歳以下の人が多ければ市は発展する**と思えます。

意見 2

- **若い人が子どもを生んでくれることを期待したい**と思います。国も児童手当の増額などに取り組んでいますし、市内企業も子育て支援に取り組んでいるところもあります。そういうことで、**子どもを生みやすい環境をつくっていく必要がある**と思います。本当は**現在よりも人口が増える方が、前向きでいい**と思いますが、事務局としても、いろいろと検討された結果だと思っています。他に何かご意見がありますか？

それでは目標人口 64,000 人でよろしいですか？

- (出席委員) 異議なし。

③ 施策の大綱について

- 戦後一番大きな農業改革が来年から始まり、農業情勢において様々な問題に直面しているところです。特に、組織なり、法人なり、国の言う本当の担い手を育成しなくてはいけない状況にあります。山陽小野田地域において農家の持つ農地面積は、平均5反ぐらいであり、オーストラリアとの貿易交渉が随時決まってくると、関税の撤廃が行われ、小さな農家ではやっていけなくなります。そのため、農地が荒れて環境が悪化する懸念が出ています。そういった中で、組織基盤をつくり、担い手としての法人格を育成することに取り組んでいます。どういう風に農地を守っていくかという問題があります。そこで、基本構想の中に農用地の利用促進なり、農地の合理化というものを通じて、環境を守っていくという項目が一言あれば、JAが中心となって農地の合理化を行い、担い手集積なり、法人格なり、国の言う担い手を育成するときに役立ってきますので、基本構想の中に取り上げてもらえればと思います。
- 3頁の基本目標にあるまちづくりの課題として「地産地消の推進」が掲げられています。第一次産業として「地産地消」も必要ですが、地域ブランドをつくり、対外発信する目標が必要ではないかと思います。

(2) 戦略プロジェクトについて

- ⑤スポーツまちづくりプロジェクトでは、たとえば、高千帆運動広場へ行く横断歩道には、街灯がなく、暗くて危険である。歩道や街灯を設置してスポーツ施設までのアクセスを整備する必要があると思います。
- **重点プロジェクトには、財政再建を最優先課題とする必要がある。**
- ①住み良さ向上プロジェクトには、児童の通学時の安全や高齢者が歩道を歩く時の安全性の向上への取り組みがみられない、具体的に道路の安全性の向上を入れる必要があると思います。
- ①住み良さ向上プロジェクトに「衛生的な生活環境を充実します」とありますが、「生活環境を美しくする」ことを推進することも必要ではないか。自治会などに働きかけ、厚狭川や有帆川の護岸に花づくりをすることが考えられると思います。また、②みらい育成プロジェクトでは、人材について触れられていますが、これから多くなる退職者を登録して、人材バンクを整備する必要があると思います。

第4回基本構想審議会 会議録（抜粋）

- 資料①の1頁の「まちづくりの基本理念」を再度読み返してみましたが、(1)～(4)を併記したような形となっていますが、(1)だけは「住み良さ」の創造となっているのに対して、(2)～(4)は「住み良さ」づくりとなっています。2頁のイメージ図を見てもわかると思いますが、「(1)生活の質を重視した「住み良さ」の創造」、いわゆる新たなものを創りだして行くという意味からすると、これは単に(1)ではなく、これが基本理念の大きな柱となっているのではないかと、そして、それを支えるものとして、(2)(3)(4)があり、これらを(1)(2)(3)とした方が、まちづくりの基本理念とイメージ図とが合うのではないかと思います。その場合、次頁のように基本理念を「4つ」と言っているのかが問題になると思います。
- 基本理念の位置付けについて、(1)をメインとしてその後はサブでよいという意見がありましたが、私は反対です。(1)健康・福祉、防災・防犯は、メインではない。**これからは(2)自治、行財政改革が重要だ**と思います。少子・高齢化に立ち向かい、**本市が衰退しないためには、(3)生活環境・都市基盤、(4)産業振興、都市基盤、(5)教育・文化も大事だ**と思う。原案どおりが正しいと思います。
- **常に「住み良さ」を創造し続けることが大切だ**と思います。そのような意味で、基本理念(1)だけでもよいと思います。
- 基本理念はあくまで理念であるのだから、(1)住み良さの創造のみでよい。(2)～(4)は削除してもよいと思います。
- 私が申したのは、資料②の2頁のイメージ図を見ても、「協働」「ネットワーク」「地域資源の活用」、これらをまちづくりとして創っていく中で、「住み良さ」のある住み続けたいまちができる、いわゆる「生活の質を重視した住み良さの創造」になっていくだろうと思います。だから、これが1番の理念だろうと思います。そして(2)(3)(4)は、まちづくりとしてそれを支えるものという位置づけになろうかと思っています。そのように整理すると、文章とイメージ図が一致して、理解がしやすくなると思います提案しました。

意見 3

意見 1